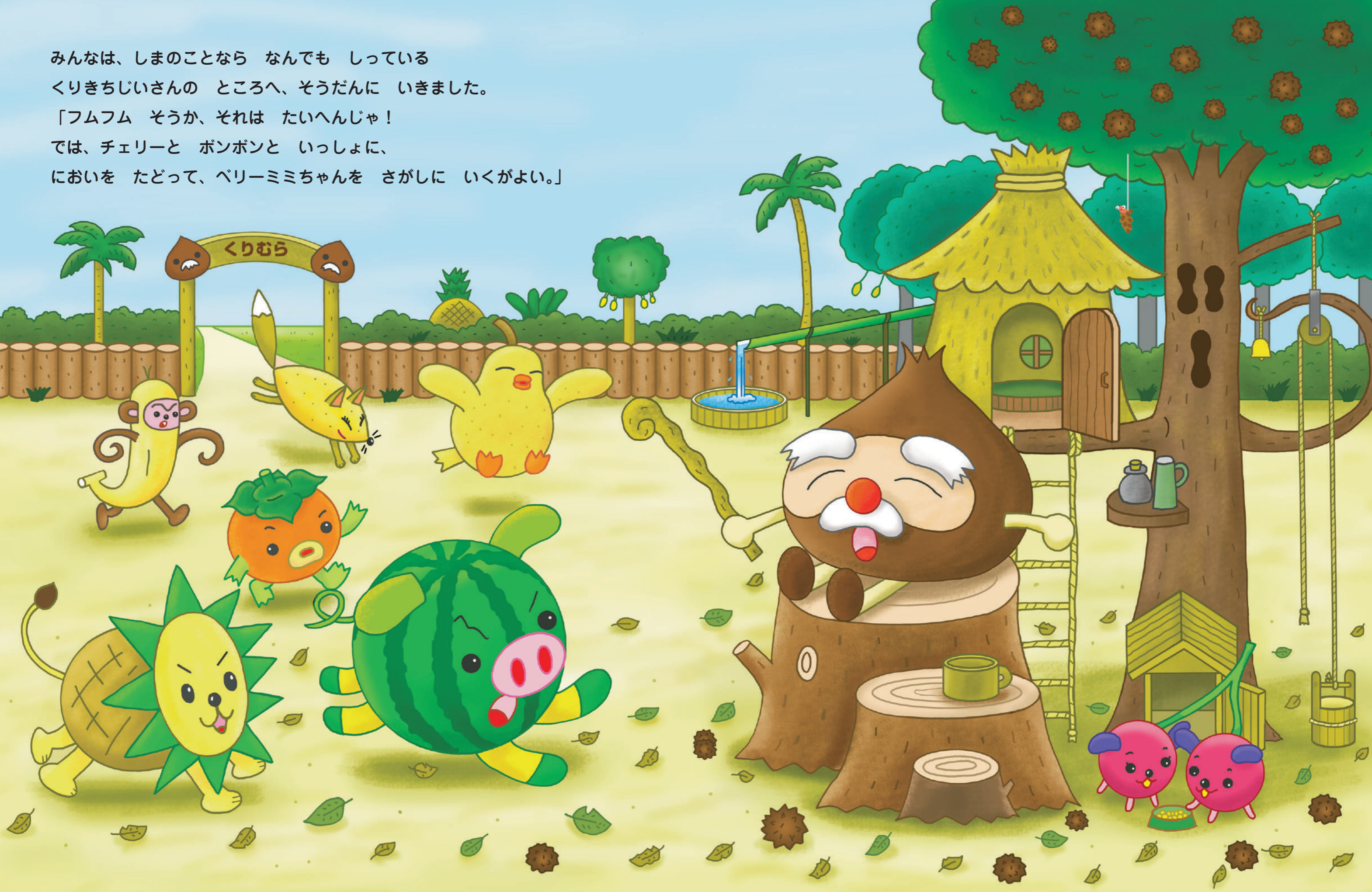


そんな あるひ フルーツじまで じけんが おきました。
しまで いちばん おいしい スイーツを つくる
ベリーミミちゃんが、とつぜん おみせから いなくなったのです。
「たいへんだブー！」
スイカブーは、いそいで しまの みんなに しらせました。



みんなは、しまのことなら なんでも している
くりきちじいさんの ところへ、そうだんに きました。
「フムフム そうか、それは たいへんじゃ！
では、チェリーと ポンボンと いっしょに、
においを たどって、ベリーミミちゃんを さがしに いくがよい。」



チェリーと ボンボン、おみせから においを たどって、
うすぐらい フルーツのもりまで やってきました。

みんなは、すこし こわかったのですが、
「みんなで ちからを あわせれば かいけつ できない ものはない！」
という くりきちじいさんの ことばを おもいだし、ゆうきを だして、
もりの なかに はいって いました。





やさいじまに わたと、キラキラした ビーズの たまが おちていました。
「これは、ベリーミミちゃんの みみかざりの ビーズだブー！
このビーズを たどっていけば、みつけることが できるブー！」
「わたしが、そらから みちあんない するナッシー。」
ナッシーは そういって そらに とびあがりました。
(ビーズを みつけながら、めいろを すすみましょう。)

「みんな たすけに きてくれて ありがとう。」

「だって ぼくたち、ともだちだブー！」



バラバラになった、やさいたちの はなしをきくと、
こういう はなしだったのです。

「ぼくたち どうしても ベリーミミちゃんの
スイーツが たべたくて……。

でも、ぼくたち きらわれものの やさいだから、
ベリーミミちゃんを さらって スイーツを
つくってもらおうと おもったんだ。」